

## 17 Webの作成

研究室の成果を発表する Web などは、  
設計・デザインして作ってみましょう。

- インターネットを使いこなせるようになると、「自分でも Web を作ってみよう」という思いが出てくるでしょう。近年はブログ（正しくは Weblog）の普及で、個人の記事のような Web であれば、より簡単に作成することができるようになりました。
- また、掲示板を自力で作成するよりも、Facebook や Twitter のような新しいコミュニティサイトを手軽に利用できるようになりました。そのため、Web を最初から作る機会は減ってきましたが、既成の Web 日記や掲示板のような形式には収まらない Web、例えば研究室の成果を発表する Web などを作成するためには、やはり最初から設計・デザインして作る必要があります。

### HTMLデータの作成

#### 理工系の学生やマルチメディア系の学生にとっては不可欠な知識です

- Web を作成するには、HTML と呼ばれる言語でデータを作成しなければなりません。ただし、最近では WYSWYG 型の Web 作成ソフトとしてワープロ編集のような作業で HTML データを作成・編集できるソフトウェアがあります。市販品ではホームページ・ビルダーが店頭でよく売れている代表的なソフトウェアです。オンライン・ソフトでは、現時点で最も安定しているのは、Sea Monkey という名の Web ブラウザやメールソフトを統合したソフトに含まれている Web 編集機能の部分です。この部分だけを Composer と呼び、これを使って簡単に Web データを作成することができます (<http://www.seamonkey.jp>)。また Web 編集機能だけに特化した Blue Griffon というソフトが開発中ですが、こちらは機能が最新の HTML や XML、CSS の規格に対応していますが、それだけに操作が複雑で初心者が使いこなすのは難しいところがあります。公開中の Microsoft の Expression Web も注目できる Web 作成ソフトです。
- HTML の理解は、とくに理工系の学生やマルチメディア系の学生にとっては不可欠な知識ですので、これらの簡単なソフトを利用して Web データを作成することには議論のあるところですが。実際に、「必ず HTML をテキスト・エディタで書かなければならない」と指導している教員もいます。一方で、「結果的に Web ができればよい」という立場に立つ教員もいるでしょう。
- また、両者の間で基本はテキスト・エディタですが、HTML の基本的なタグを簡単な操作で埋め込むタイプのソフトもあって、これはオンライン・ソフトとして多く出回っています。

### 自分でつくった Web の公開の方法

#### 学内では授業に限り 指導のうえで公開することができます

- ただし、HTML でデータを作成しただけでは Web としてインターネットに公開できません。Web を公開するには、インターネット上にある Web サーバーという特別なコンピュータ・サーバーにデータを転送し、また、そのサーバー上に自分のデータ用のスペースを確保し、なおかつ自分のアドレスをサーバーを設置した組織に登録してもらわなければなりません。
- 本学もそうですが、大学が学生個人にサーバーを用意し、その使用を無制限に許している場合は必ずしも多くはありません。この後で述べるような理由で、安易に Web を公開したときにその Web の内容に対して、個々の学生に責任が発生するからです。おそらく HTML の授業などで臨時にサーバーが用意され、担当教員の技術的かつ内容的な指導のうえで公開するという運用方法を取るケースが多いようです。
- したがって、もし皆さんの友人や知り合いで自分の Web を持っている人がいれば、自分の家で利用しているプロバイダが用意した Web サーバーを利用しているケースが多いでしょう。

### トラブルを避けるために配慮すること

#### Web 公開は迷惑をかける人や 団体がないかを常に配慮

- 技術的に比較的簡単にできるからといって、Web やブログを安易に作成・公開するのは勧められません。Web やブログは、いったん公開すると不特定多数の人にその内容が伝わります。このことの意味と責任を十分に理解しないで Web を公開することは、非常に危険な行為です。
- 著作権や個人情報の保護を、しっかり理解する必要があります。また、内容が公開に値する内容か、公開したことによって迷惑を受ける人や団体がないかを常に配慮すべきです。
- 最近、学生の起こしやすいトラブルの一つに、こうした安易に Web やブログを公開したことが原因になっているものがあります。Web やブログ、Facebook、Twitter 等で書いた内容によって友人とトラブルになったり、大学やインターンシップの派遣先に大きな迷惑をかけたケースがいくつかあります。
- また自分の個人情報を自ら漏らして、本人が大きなトラブルに巻き込まれるケースもあります。たいていの場合、本人にはこうしたトラブルに発展するという意識が薄く、「些細な独り言のような気持ちで安易にインターネットに公開してしまったことが大きな問題の引き金になった」というケースが多いのです。
- 何よりもインターネットは短期間で世界中にその内容が伝わってしまうという前提のうえで、その行為によって他人に迷惑や不利益を与えないかを熟慮したうえで利用しなければなりません。